

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

局名		産業経済局	
基本計画	柱	人を育てる	
	大項目	アジアをリードする頭脳拠点の形成	
	取組みの方針	技術・技能の継承	
担当局 / 総務担当課名		産業経済局	産業政策課
連絡先		582-2299	

21年度計画

-2-(3)-

施策名	技術・技能を継承する人材の育成
------------	------------------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	「北九州マイスター事業」や「北九州技の達人事業」などを通じて、本市の産業を支える優れた技術者・技能者を表彰するとともに、卓越した技術や技能の継承と人材の育成に取り組みます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	技術・技能の継承

	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度		目標値	
		年度	平成21年度		年度	平成25年度	年度	平成25年度
施策の成果	マイスター匠塾受講者延べ人数	年度	平成21年度	計画	380 人	年度	平成25年度	
	マイスター匠塾受講者の延べ人数は、技能伝承の成果を典型的に示す数値であるため、成果指標として設定しました。	現状値	372人	実績	372 人	目標値	500人	
		達成度			97.9 %			
	「匠」に学ぶ技能講習会受講者延べ人数	年度	平成21年度	計画	12 人	年度	平成25年度	
	「匠」に学ぶ技能講習会受講者の延べ人数は、技能伝承の成果を典型的に示す数値であるため、成果指標として設定しました。	現状値	12人	実績	12 人	目標値	100人	
		達成度			100.0 %			
	北九州技の達人の講演・実演参加者延べ人数	年度	平成21年度	計画	13,500 人	年度	平成25年度	
	北九州技の達人の講演・実演参加者の延べ人数は、技能伝承の成果を典型的に示す数値であるため、成果指標として設定しました。	現状値	13,471人	実績	13,471 人	目標値	20,000人	
		達成度			99.8 %			
	マイスター認定延べ人数	年度	平成21年度	計画	34 人	年度	平成25年度	
マイスター認定者の延べ人数は、技能伝承を図る前提となるものであるため、成果指標として設定しました。	現状値	34人	実績	34 人	目標値	40人		
	達成度			100.0 %				
技の達人認定延べ人数	年度	平成21年度	計画	43 人	年度	平成25年度		
技の達人認定者の延べ人数は、技能伝承を図る前提となるものであるため、成果指標として設定しました。	現状値	43人	実績	43 人	目標値	50人		
	達成度			100.0 %				
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]			事業費	252,400 千円	構成事業にかかった 人件費の目安(21年度)		
					うち一般財源	252,400 千円	24,000 千円	

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
	B	各指標について、概ね計画通りの実績を残しており、順調な推移だと言えます。施策を構成する事業についても、進捗状況は概ね良好ですが、マイスター匠塾受講者数及び北九州技の達人の講演・実演参加者数について、さらに受講者や参加者数を増やす努力をする必要があります。
今後の局施策の方向性	各指標は概ね計画通り推移しており、今後も引き続き積極的な推進を図っていきます。また、事業の着実な実施に加えて、受講者や参加者を増やす取組を行い、より効果的な事業実施を図ります。	

[局施策評価] A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

<input type="checkbox"/> 適切な評価 <input checked="" type="checkbox"/> 下記のとおり
目標値の考え方を示すことが必要と考えます。

施策名 技術・技能を継承する人材の育成

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
技能伝承支援事業			2,143 千円	6,000 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			2,143 千円						
北九州マイスター事業			4,857 千円	6,000 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			4,857 千円						
北九州技の達人事業			27 千円	6,000 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			27 千円						
産業技術保存継承センター管理運営事業			245,373 千円	6,000 千円	義務的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			245,373 千円						
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									
事業費のうち一般財源									

局施策全体のコスト	21年度		
	事業費	人件費(目安)	
	252,400 千円	24,000 千円	
施策全体の事業費のうち一般財源	252,400 千円		

局施策の 21年度評価
B

【局施策評価】
A: 大変良い状況にある
B: 概ね良い状況にある
C: 概ね良い状況とまでは言えない
D: 不十分な状況にある

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	産業経済局	産業政策課
連絡先	582-2299	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	アジアをリードする頭脳拠点の形成
	取組みの方針	技術・技能の継承
	主要施策	技術・技能を継承する人材の育成

関連計画	産業雇用戦略
事業期間	平成20年度～
経費区分	裁量的経費

-2-(3)-

事業名 技能伝承支援事業

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	中小企業においては熟練技能者の高齢化、退職による技能伝承が重要な課題となっています。そこで、熟練技能者による実技指導で技能伝承支援とモノづくり人材の育成を図ります。 また、市内の工業高校生が技術・技能を競い合う大会を開催し、表彰することで、高校生のものづくりに対する意欲と技術力を向上させるとともに、本市のものづくりの社会的機運を高めます。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	技術・技能を継承する人材の育成	成果

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由	
		当初計画	マイスター匠塾年間受講者数43人 「匠」に学ぶ技能講習会年間受講者数12人	マイスター匠塾年間受講者数32人 「匠」に学ぶ技能講習会年間受講者数22人	マイスター匠塾年間受講者数32人 「匠」に学ぶ技能講習会年間受講者数22人	マイスター匠塾年間受講者数32人 「匠」に学ぶ技能講習会年間受講者数22人		マイスター匠塾年間受講者数32人 「匠」に学ぶ技能講習会年間受講者数22人
【実施状況】	現状	マイスター匠塾年間受講者数35人 「匠」に学ぶ技能講習会年間受講者数12人	マイスター匠塾年間受講者数32人 「匠」に学ぶ技能講習会年間受講者数22人	マイスター匠塾年間受講者数32人 「匠」に学ぶ技能講習会年間受講者数22人	マイスター匠塾年間受講者数32人 「匠」に学ぶ技能講習会年間受講者数22人	マイスター匠塾年間受講者数32人 「匠」に学ぶ技能講習会年間受講者数22人		
	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標
	マイスター匠塾の年間受講者数				計画	43 人	年度	平成25年度
	受講者の延べ人数を増やしていくためには、着実に講座を実施し、毎年の受講者を集めていく必要があります。				実績	35 人	内容	32人
「匠」に学ぶ技能講習会の年間受講者数				計画	12 人	年度	平成25年度	
受講者の延べ人数を増やしていくためには、着実に講座を実施し、毎年の受講者を集めていく必要があります。				実績	12 人	内容	22人	
【コスト】	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]	事業費				2,143 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
		うち一般財源				2,143 千円	6,000 千円	
【単年度計画】							担当課のみ。	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	21年度は、マイスター匠塾の受講者が35人(81.4%)、「匠」に学ぶ技能講習会の受講者が12人(100%)でした。計画に近い実績を残すことができました。来年度も着実な計画の実施に努めます。
--------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、「目の前で匠の技を見ることができたのは大変貴重な経験になった」など、受講者の評判もよく、引き続き受講を希望する要望も強いため、技術・技能を継承する人材の育成に対する有効性は高いと考えます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	3	現在、他機関との共催事業として募集チラシ作成費、講師謝礼、材料費等の経費を分担し、経済的に運営していますが、今後も経済性や効率性を持った取組が必要と考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	熟練技能者の高齢化、退職による人材不足が深刻化している現在、本事業の適時性は高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。		3	現在のところ、他の実施主体による実施は少なく、市による実施の必要性はあると考えます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は技能伝承支援を図っていくうえで重要な事業であると考えています。来年度も着実な計画の実施に努めます。	

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	産業経済局	産業政策課
連絡先	582-2299	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	アジアをリードする頭脳拠点の形成
	取組みの方針	技術・技能の継承
	主要施策	技術・技能を継承する人材の育成

関連計画	産業雇用戦略
事業期間	平成13年度～
経費区分	裁量の経費

-2-(3)-

事業名	北九州マイスター事業
-----	------------

【事業の概要】	何(誰)をどのようになりたいのか。	本市の高度な産業技術を支える卓越した技能者を「北九州マイスター」として認定・表彰し、その社会的認知度を高めるとともに、北九州マイスターによる技能伝承活動を推進し、優れた技能の維持・継承および人材の確保・育成を図り、地域産業の振興に資することを目的とします。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	技術・技能を継承する人材の育成	成果	マイスター認定延べ人数

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	マイスター年間認定者数 4人		マイスター年間認定者数 3人		マイスター年間認定者数 3人				
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		マイスター年間認定者数(隔年実施)						計画	4人	年度	平成25年度
		認定者の延べ人数を増やしていくためには、着実に認定を実施していく必要があります。						実績	4人	内容	3人
								達成度	100.0%	内容	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	4,857千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	4,857千円	6,000千円		
単年度計画	担当課のみ。										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	21年度は、マイスターを4名認定することができました。今後も着実な計画の実施に努めます。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、技能者の社会的地位の向上と技能尊重機運の醸成を図るもので、技術・技能を継承する人材の育成に対する有効性は高いと考えます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3	現在、認定にあたって経済的な事業実施に努めていますが、今後も経済性や効率性を持った取組が必要と考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	熟練技能者の高齢化、退職による人材不足が深刻化している現在、本事業の適時性は高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。		3	現在のところ、他の実施主体による実施は少なく、市による実施の必要性はあると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は技能伝承支援を図っていくうえで重要な事業であると考えています。来年度も着実な計画の実施に努めます。	

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	産業経済局	産業政策課
連絡先	582-2299	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	アジアをリードする頭脳拠点の形成
	取組みの方針	技術・技能の継承
	主要施策	技術・技能を継承する人材の育成

関連計画	産業雇用戦略
事業期間	平成16年度～
経費区分	裁量的経費

-2-(3)-

事業名	北九州技の達人事業
-----	-----------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	各分野において、多年にわたり技能を磨き、実績が顕著に認められる技能者を「北九州技の達人」として認定・表彰するものです。「北九州技の達人」においては、「機械・金属」等の工業系製造業に限定した「北九州マイスター」制度とは異なり、商業分野・サービス分野等(理美容、調理、和洋裁等)も含めるなど、より幅広い分野の技能者を対象とし、技能尊重機運の更なる醸成と、地域産業の活性化に資することを目的とします。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	技術・技能を継承する人材の育成	成果

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由	
		当初計画	技の達人講演・実演年間参加者数4,552人	技の達人年間認定者数4人 技の達人講演・実演年間参加者数1,729人	技の達人講演・実演年間参加者数1,600人	技の達人年間認定者数3人 技の達人講演・実演年間参加者数1,600人		技の達人講演・実演年間参加者数1,600人
現状		技の達人講演・実演年間参加者数4,552人	技の達人年間認定者数4人 技の達人講演・実演年間参加者数1,729人	技の達人講演・実演年間参加者数1,600人	技の達人年間認定者数3人 技の達人講演・実演年間参加者数1,600人	技の達人講演・実演年間参加者数1,600人		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標
	技の達人年間認定者数(隔年実施)				計画	実施なし	年度	平成24年度
	認定者の延べ人数を増やしていくためには、着実に認定を実施していく必要があります。				実績	実施なし	内容	3人
	達成度						%	
技の達人の講演・実演年間参加者数				計画	4,581人	年度	平成25年度	
参加者延べ人数を増やしていくためには、着実に講演・実演を実施していく必要があります。				実績	4,552人	内容	1,600人	
達成度						99.4%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]				事業費	27千円	事業にかかった人件費の目安(21年度) 6,000千円	
					うち一般財源	27千円		
単年度計画							担当課のみ。	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	21年度は、技の達人の認定の実施はありませんでしたが、4,552人の講演・実演参加者を得ることができました。来年度以降も着実な計画の実施に努めます。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、技能者の社会的地位の向上と技能尊重機運の醸成を図るもので、技術・技能を継承する人材の育成に対する有効性は高いと考えます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	3	現在、認定にあたって経済的な事業実施に努めていますが、今後も経済性や効率性を持った取組が必要と考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	熟練技能者の高齢化、退職による人材不足が深刻化している現在、本事業の適時性は高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。	3	現在のところ、他の実施主体による実施は少なく、市による実施の必要性はあると考えます。	
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は技能伝承支援を図っていくうえで重要な事業であると考えています。来年度も着実な計画の実施に努めます。	

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	産業経済局	産業政策課
連絡先	582-2299	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	アジアをリードする頭脳拠点の形成
	取組みの方針	技術・技能の継承
	主要施策	技術・技能を継承する人材の育成

関連計画	
事業期間	平成19年度～
経費区分	義務的経費

-2-(3)-

事業名	産業技術保存継承センター管理運営事業
------------	---------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市が蓄積してきた3つの資産である「人材」「技術」「産業遺産」を活用しながら、「人材活用・育成」「産業技術の保存継承」「技術革新(イノベーション)の機会創出」を目的に、様々な取組みを実践する施設である北九州産業技術保存継承センターに指定管理者制度を導入し、施設管理を円滑かつ効率・効果的に進めます。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	技術・技能を継承する人材の育成	成果	

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	入館者数 55,000人 企画展観覧者数 17,300人	入館者数 60,000人 企画展観覧者数 17,500人	入館者数 60,500人 企画展観覧者数 17,900人	入館者数 61,500人 企画展観覧者数 18,400人	入館者数 63,000人 企画展観覧者数 19,100人				
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		入館者数					計画	55,000 人	年度	平成25年度	
		人材育成を図るためには、入館者を着実に増やしていく必要があります。						実績	61,333 人	内容	63,000人
		企画展観覧者数						達成度	111.5 %	年度	平成25年度
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	245,373 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度) 6,000 千円	
								うち一般財源	245,373 千円		
	単年度計画	担当課のみ。									

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	21年度は、入館者数、企画展観覧者数ともに、計画を達成することができました。来年度も着実な計画の実施ができるよう指定管理者と調整を図っていきます。
-------------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は本市が蓄積してきた3つの資産である「人材」「技術」「産業遺産」を活用しながら様々な取組みを実践する事業であり、産業技術の継承に対する有効性は高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	現在、指定管理者制度を導入し、経済的に運営していますが、今後も効率性を持った取組が必要と考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	熟練技術者の高齢化、退職による人材不足が深刻化している現在、本事業の適時性は高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。	3	現在のところ、他の実施主体による実施は少なく、市による実施の必要性はあると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は産業技術の継承を図っていくうえで重要な事業であると考えています。来年度も着実な計画の実施に努めます。